

第43回全国都市緑化フェアin京都丹波基本構想【概要版】

1 開催の目的

日本の原風景ともいえる農村・里山等緑豊かな自然が広がる「京都丹波」において、恵まれた環境と文化的価値、その魅力を地域に暮らす人々と訪れる人々が共に享受し、新たな地域振興のポテンシャルを生む機会をつくるとともに、都市と農村の交流を促進し「こころ豊かなライフスタイル」による新たな時代の幸福社会の実現に寄与することを目的とします。

2 開催の意義

京都丹波の財産といえる自然等の資源を活かす

- ・ 地域生態系や農地・里山の風景を守り、活かす
- ・ 自然を敬い、自然と共にある暮らしの提案
- ・ グリーン・ツーリズム、エコツーリズム、ガーデンツーリズム等による花と緑のまちづくり



「環境」
を尊び

「食農」を基幹とした地域経済の活性化

- ・ 都市と農村の連携の促進、交流人口の増加
- ・ 産官学民の協働による共感・共創のまちづくり
- ・ 地場農産品のブランド化、付加価値の向上



「食農」
を興し

文化・芸術を通じた地域の魅力発見と振興

- ・ 創造的で文化的な表現活動を通じたまちづくり
- ・ 若い世代が憧れ、魅力を感じるまちづくり
- ・ 地場産業・産品を育む諸活動の支援



「芸術」
を魅せる

3 開催の基本方針

京都丹波の地域色豊かな環境や風景、文化を体感・体験することにより、もう一つの京都の魅力を堪能するフェア

- ・ 緑化フェアの開催に合わせて京都丹波を巡りながら、地域の歴史、伝統、食、産業・技術等の資源を体感・体験することにより、これまでの京都観光とは違う日本の原風景等京都丹波の魅力を国内外の人々に向け発信する。

「食農」を基幹とした都市と京都丹波地域の交流による新たなライフスタイルを提案するフェア

- ・ コロナ禍を経験し、効率性と便利さを追求した都市生活を離れ、「心の豊かさやすらぎ、安心安全な暮らし」を基調としたゆとりある地域での生き方、過ごし方を見直すことで、新たなライフスタイルを発見する好機とする。

子どもたちの豊かな感性を育み、「ふるさと」を愛する地域の担い手を育てつないでいくフェア

- ・ 未来を担う子どもたちの心身の健やかな成長の実践の場を提供するとともに、文化・芸術による地域の魅力の発見や情報を発信することで、豊かな暮らしを定着させる機会とする。

4 名称等

(1) 名称

第43回全国都市緑化フェアin京都丹波

(2) 開催テーマ

京都丹波フェアの目的・意義・基本方針を踏まえて基本計画時に設定

(3) 愛称

京都丹波フェアの目的・意義・基本方針・コンセプトが誰にでもわかりやすく伝わるような愛称を基本計画時に設定

(4) 主催

京都府、亀岡市、南丹市、京丹波町、公益財団法人都市緑化機構

(5) 開催時期

開催時期は2026(令和8)年の9月中旬～11月上旬をコア期間とし、コア期間以外でも、京都丹波地域の様々な歳時と積極的に連携し、地域の魅力を伝えていく



図 開催地域位置図

5 会場計画

(1) フェア会場の基本的な考え方

京都丹波地域には多様な魅力をもつ資源や資産がある。京都丹波フェアでは、フェアの目的・意義・基本方針を踏まえ、京都丹波地域全体を一つの会場とする。そして、京都丹波地域の特徴や資源・資産の魅力を感じられるエリアや場所を地域の周遊・観光の拠点やスポットに位置づけ、京都丹波地域を満喫して頂くフェアとする。

会場構成	場所
会場	京都丹波地域全体
フェア拠点	京都・亀岡保津川公園及び周辺
	亀岡運動公園及び周辺
	園部公園及び周辺
	わち山野草の森及び周辺
	京都府立丹波自然運動公園及び周辺
フェアスポット	京都府立丹波自然運動公園及び周辺
	京都・亀岡保津川公園及び周辺
	亀岡運動公園及び周辺
	ガレリアかめおか／美山かやぶきの里／スプリングスひよし／京都府立り湊自然公園／城跡／グリーンランドみずほ／質志鐘乳洞公園／琴滝／等

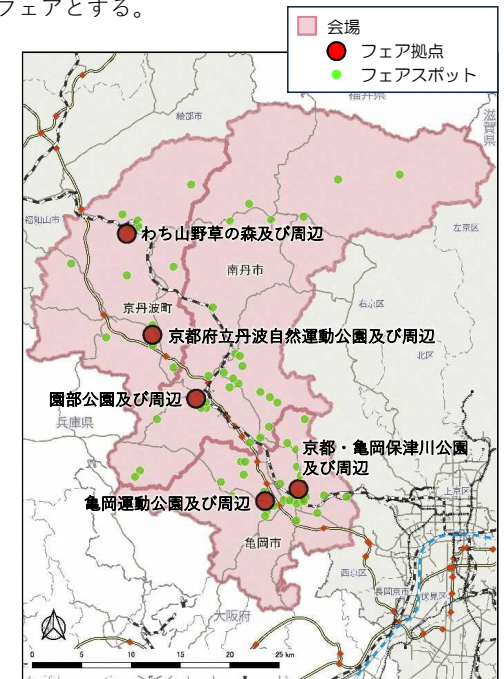


図 会場構成図

※フェアスポットについては、地域の方々のご意見を聞きながら、上記を含めて基本計画以降に設定します。

第43回全国都市緑化フェアin京都丹波基本構想【概要版】

(2) フェア拠点

京都・亀岡保津川公園及び周辺

京都丹波地域の豊かな自然と、その上に成り立つ営みである農の体感・体験を通じて、地域や農、環境への理解を促し行動変容につながる拠点

概要
13.9ha(未整備)。フェア開催に向け都市公園整備実施予定。背景には里山が連なり、眼前には桂川、水田、アユモドキの生息場が広がり、京都丹波地域ならではの里山と盆地の特徴を感じられる場所。



日本の原風景の美しさを伝える展示や農の価値を再発見するためのコンテンツを展開

わち山野草の森及び周辺

京都丹波地域の豊かな緑・多彩な植物との触れ合いを通じて植物の豊かさ、大切さを学ぶとともに京都丹波の魅力に触れる拠点

概要
京丹波町保有施設。供用12ha。一般財団法人運営。里山のふもと、由良川沿いに広がる癒しの自然活用型公園で、約900種の山野草や花木の、素朴で美しい姿を見られる場所。



京都丹波地域の豊かな植物と、心を豊かにする文化・芸術とが融合した展示や山野草をテーマにしたコンテンツを展開

亀岡運動公園及び周辺

隣接するコスモス園と連携したスケール感のある華やかな修景の中で、多様な主体による屋外展示やコンテンツを楽しむとともに学びを深め、地域の魅力を発見・再認識して地域づくりへとつなげる拠点

概要
亀岡市管理の都市基幹公園（運動公園）。供用15.9ha。指定管理導入。園内にはかめおか国際交流記念公園があり、多くの市民が利用する場所。隣接するコスモス園は秋の風物詩。

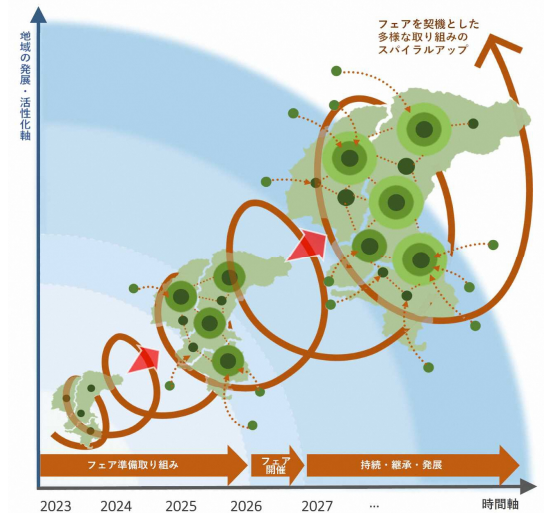


コスモス園と連携した華やかな修景の中で多彩な提案に触れ、学ぶことができる出展を展開

6 事業計画

■ 事業展開の基本的な考え方

- 京都丹波フェアの事業全体を通じて、積極的に環境に配慮した取り組みを行うことで、地域の環境の価値の再認識につなげる。また、かけがえのない地域の環境を守っていくことの大切さが共通認識となり、次世代に継承され、活動が継続していくことを目指す。
- 京都丹波フェア開催の効果を一過性で終わらせないことを念頭に、フェアで行う様々な取り組みがレガシーを創出し、フェア閉幕後の京都丹波地域の持続的な発展や活性化につながるような事業展開を目指す。



園部公園及び周辺

歴史を感じさせる落ち着いた修景の中で、多様な主体による屋内展示やコンテンツを楽しむと共に学びを深め、京都丹波地域への愛着を深める拠点

概要
南丹市管理の都市基幹公園（総合公園）。供用19.0ha。昭和31年供用開始。南丹市の中心市街地に隣接し、わが町を見渡せる小麦山がある都市公園。地域の歴史を感じさせる国際交流会館、文化博物館が隣接。



京都丹波地域の眺望を楽しむ場や、高い園芸技術に触れ、学ぶことができる出展を展開

7 事業スケジュール

項目	2023 (令和5) 年度	2024 (令和6) 年度	2025 (令和7) 年度	2026 (令和8) 年度
計画策定等	基本構想	基本計画	実施計画	開催準備
国との協議		● 大臣同意		
実行体制		● 実行委員会設立 設立総会	● 実行委員会 総会	● 実行委員会 総会

事業推進 ※可能なものから随時着手

持続継承発展

全国都市緑化フェア

京都府立丹波自然運動公園及び周辺

地域の食や、花や緑の普及啓発をはじめとした地域の魅力を伝える多様なイベントを通じて、人が集まり、交流し、地域の魅力を満喫する拠点

概要
京都府立の大規模公園（広域公園）。指定管理導入。供用53.2ha。昭和45年供用開始。高原ならではの起伏のある地形と豊かな緑に彩られた都市公園。京都府中部地域の中核をなす公園施設として多くの府民が利用。



地域の食を満喫できる場や多彩なイベントを展開